

阪南市市民協働・共創事業評価シート

記入日 2026年 1月 16日

阪南市市民協働・共創事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団体名	子どもNPO はらっば (担当者名：殿井 幸代)
担当課名	生涯学習推進室 (担当者名：根来 爽乃)
事業名	放課後の子どもの居場所事業
事業開始からの実施期間	平成26年(西暦2014年) 4月 1日～ 年(年) 月 日
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 事業委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会 <input type="checkbox"/> その他()
事業の年度	<input type="checkbox"/> 初年度 <input type="checkbox"/> 継続2年目 <input type="checkbox"/> 継続3年目 <input checked="" type="checkbox"/> 継続4年以上(12年目)

1. 事業の概要

(1) 事業の目的(事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください)

子どもがあらのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を定期的に地域に開設し、提供することを目的とする。

(2) 役割分担(団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください)

団体	実施運営・広報チラシ作成
事業担当課	予算措置、委託契約、補助金申請、補助金実績報告、参加者への周知

(3) 事業費

団体	54,732円 (実務人件費 29,300円 光熱水費 4,200円 通信費 165円 保険料 3,112円 消耗品費 17,955円)		
市	476,000円 (委託費 476,000円)		
合計	530,732円		

初年度の事業費計	691,155円	団体分担 131,155円	市分担 560,000円
前年度の事業費計	629,644円	団体分担 50,044円	市分担 579,600円

(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

①名称	阪南市☆キッズはらっぱ
②開催日時	毎週月曜日・金曜日 午後3時30分～5時（夏季休暇は午後1時～5時） 毎月1回土曜日午後3～5時 夏季休暇中の水曜日 午後1時～5時 土曜日午前10時～12時（不定期）
③開催場所	ふれ愛ホーム・東鳥取公民館・西鳥取公民館 市内小学校体育館
④対象者	小中学生
⑤参加人数	年間1400～1500人
⑥事業の内容	子どもがりのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を定期的に地域に開設し、提供する。
⑦収益	参加費無料（収益無し）

(5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。

※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

<ul style="list-style-type: none">・平日の放課後、継続して利用する子どもの中には「この場所が好き」「ゆったりできるから遊びやすい」などの声が聞かれた。子どもが選んであそびに行ける場があることの必要性を話される保護者もいた。子どもが歩いて行ける場がベストであるが、校区外や、子どもだけでは行きにくい場所では、保護者の協力のもと付き添いや送迎などで利用することができていた。・児童公園の近くにある会場では、キッズはらっぱから公園へ移動し、公園からキッズへと立地条件の良さから子どもたちが自由に行き来ができ、安心して遊べる場所になっていた。猛暑の中、外であそんでいた子どもはエアコンが効いた部屋に入り、熱中症の予防にもなっていた。・夏休みは工作の日を設け、キッズカレンダーのお知らせを見て工作を楽しみに参加した子どももいた。・開催校区に住んでいるスタッフの時は、保護者や子どもが顔見知りであり、子育てでちょっとした悩みなどを話せる場になっていた。キッズはらっぱに興味関心を持たれ、スタッフとして関わりたいと保護者からの声が聞かれた。・土曜開設では、学童の子どもが指導員と一緒に参加し、広い体育館でボールあそびなど、のびのびとあそぶ姿が見られた。父親などの保護者も子どもと一緒に参加していた。学年を超えた交流ができ、普段の登校が心配であった低学年のお子さんが、高学年の顔見知りできて、学校に行きやすくなった、という保護者からの声があった。・「キッズカレンダー」以外に、土曜日開設の会場となる小学校へ個別チラシを配布し、「キッズはらっぱ」をこまめに案内することで身近に感じてもらえ、周知と参加者を増やすことができた。

(6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

<ul style="list-style-type: none">・「広報はんなん」に年間1～2回掲載。「キッズカレンダー」チラシを年間10回、小・中学校に配布し広報に努めた。・担当課からの情報で、企業が提供するプログラムを行ったり、地域の団体が講師となって交流会を実施したりした。（自動販売機のペーパークラフト・なわとび教室・卓球バレー）
--

2. 協働事業の評価

- 下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
 - 大変よくできた（5点）
 - よくできた（4点）
 - できた（3点）
 - あまりできなかった（2点）
 - できなかった（1点）
 - 評価項目として適当でない（N）
- ※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

(1) 評価

	評価項目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施前	1	実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	3	4	3.5
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	3	3	3
	3	事業の実施に際して、計画書や工程表の作成等、計画的な実施のため協議・工夫しましたか。	4	4	4
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	3	3	3
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報共有をしましたか。	3	3	3
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	4	3	3.5
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	4	4	4
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	4	4	4
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	5	5	5
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	4	4	4
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	3	4	3.5
	12	予算は妥当でしたか。	3	3	3
	13	課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	4	3	3.5
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	4	5	4.5

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番号	理由

(2) 協働して良かったこと、団体や行政の単独ではなく協働で実施したことによりどのようなメリットがあったかなどを記入してください。

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・「阪南市全体の子どもたちの、放課後の居場所を保証していく」という協働目的に沿って実施できたこと。 ・会場となる施設（公民館、小学校体育館）の確保がスムーズにできた。 ・市と協働事業で、学校や保護者から信用を得られた。 ・コーディネーターやスタッフ研修などの情報提供を受けることができた。 ・事業の周知方法として、「広報はんなん」への掲載や、毎月の案内チラシを公共施設に配架、公立小中学校への配布により、確実に子どもたちの手に届けられた。
行政 にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・行政だけでは人材確保や財政面で事業展開が困難であり、協働で事業を行うことにより、市民、利用者ニーズに合わせた事業展開を図ることができた。
市民 にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後や土曜日の子どもの居場所として、安心してあそべる場所ができた。

(3) 協働して課題だと感じたこと、翌年度も事業実施する場合はその改善のために具体的にどのように取り組むかを記入してください。

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所事業に関わるスタッフへの研修を、団体の経費で行っている。少子化や変化する社会状況に対応する人権意識は、学びからのアップデートが必要であり、一歩踏み込んだ連携が課題である。 ・地域で放課後の居場所を見出しにくい家庭環境の子どもたち（保護者の就労、シングル家庭、介護など多忙なため子どもへの意識が向けにくい等）が、少数でも安心して参加できる、地域のおとなとも関われる居場所としての周知が課題→学校や行政との連携、地域の声などを受け取れる体制が必要である。
行政 にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・団体との情報共有について、委託による事業実施のため、毎月の報告は受け取っているが、コーディネーター等から直接話を聞く機会がほとんどないため、コーディネーターとの懇談や視察を行い、情報共有を密にし、よりよい事業となるように取り組む。
市民 にとって	

(4) 今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載してください。

■今後も協働事業として実施する（■提案事業継続 □提案事業以外）

□終了する

□市が単独で実施する

□団体が単独で実施する

□その他（ ）

上記の回答とした理由を記載してください。

（『協働事業として実施』を選択された場合は、提案事業（以外）とする理由も含めて記載してください。）

<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは子どもと関わる中で居場所の必要性を感じながら、なくしてはいけない場所だと感じている。阪南市のすべての子どもたちのために、これからも協働事業として継続的に取り組んでいきたい。
--

(5) 実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体の自主財源確保の方法などを含めた具体的な事業展開の内容などを記入してください。

- 利用している子どもたちの声から、居場所をどうすれば居心地のよい場所になるのか一緒に考え、ニーズに合った居場所づくりへとつなげていき、安心、安全な居場所となるようにさらに充実を図る。そのために、阪南市の子どもの現状を把握し、子どもたちからの声を行政に届けられる橋渡し役となり、行政、学校、地域と連携し、居場所への理解と協力を求め、阪南市の子どもたちの健やかな成長へとつなげていく。
- 多くの人に子どもの居場所「キッズはらっぱ」の存在となぜ居場所が必要なのか理解を求め、子どもに適した安心安全なあそび場、人材確保について引き続きアピールしていく。
- 土曜日午前の小学校開設を継続するため、学校区の地域の方、保護者、学校（先生方）にも理解と協力を求める。

(6) その他

子ども NPO はらっぱのすべての活動は、子どもの権利条約の理念に基づき活動しており、キッズはらっぱは、その一つです。阪南市は昨年度1月に「阪南市子どもの権利に関する条例」が施行し、キッズはらっぱスタッフも子どもと関わるおとなとして、より一層「子どもの権利条約」の学習会や研修会などで学び、行政と共に、自由に子どもが意見の言える場となるように関わっていきます。おとな（スタッフ）が、子どもの声を聴く「子どもの居場所」であると意識を高め、子どもたちに欠かせない場所で、阪南市の子どもたちの健やかな成長へとつなげられたらと考えています。

